

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277100968
法人名	医療法人社団 長啓会
事業所名	グループホーム 四葉の家
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市北区根洗町 207番地の3 (053-430-6500)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年6月25日

## 【情報提供票より】(平成20年5月31日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 04 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 14 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	17.8 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4)利用者の概要(平成5月31日現在)

利用者人数	26 名	男性	8 名	女性	18 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	57 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	前嶋内科、鈴木内科クリニック、鎌田歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>法人グループは、静岡県・愛知県・神奈川県に約60のグループホームを展開しており、この「四葉の家」は、その草分けのホームである。館長は開設当初から8年目になるが創業の意志を忘れず、職員との連携の下に利用者の介護に当たっている。ホーム独自の理念も地域密着型に相応しく、利用者が地域の一員として「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」その人らしく暮らせる住まいを目指している。利用者のペースを尊重した介護を実践しており、家族からも喜ばれている。利用者の高齢化や重度化に備え、ターミナル指針やマニュアルの検討が望まれる。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員の努力により、昨年の指摘項目は殆ど改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は、評価の意義を良く理解しており、自己評価票作成には全員で取り組み、三つのユニットの特徴が良く表れていた。自己評価を実施することにより、ホームのあり方がより理解され、改善に向けて皆で協働しようとしている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議規定が作成されていた。会議は、利用者・家族・市職員・包括支援センター職員・地域代表者・管理者職員をメンバーとして、平成19年3月と平成19年2月に開催され、入居者の状況・ホーム行事等の報告を行い、意見や情報をいただいてサービス向上に活かしている。しかし、開催頻度が少なすぎるようである。規定に基づき着実な開催を期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>受付窓口が重要事項説明書等に明記されており、電話連絡や来訪時に何時でも苦情・相談を受け付ける体制がある。その意見をホームの運営に活かし、必要に応じて利用者の健康状態・生活状態等を報告している。また、金銭管理は出納帳に領収書を添付して一ヶ月毎に渡している。更に利用者ごとにメモ等を添えたホーム便りのようなものを検討し、家族との絆を強める工夫が望まれる。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、神社のお祭りや草取りの行事等には参加しているが、散発的である。茶畑に囲まれ、地域行事がそれほど多くない地域かもしれないが、老人会・学校関係ボランティア等幅広い活動を模索願いたい。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型に相応しく、ホーム独自の理念として、【地域の一員として・・役割を持ち・・「ゆっくり」・「一緒に」・「楽しく」その人らしく・・・】をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念は、ヒアリングを行った3人の職員全員が諳んじており、明るく優しく接し、信頼関係を構築し、その人らしく暖かい気持ちで生活できるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、神社のお祭りや草取りの行事等には参加しているが、散発的である。	○	茶畑に囲まれ、地域行事がそれほど多くない地域かもしれないが、老人会・学校関係ボランティア等幅広い活動を模索されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価の意義を良く理解しており、自己評価票作成には全員で取り組み、三つのユニットの特徴が良く表れていた。自己評価を実施することにより、ホームのあり方がより理解され、改善に向けて皆で協働しようとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・市職員・包括支援センター職員・地域代表者・管理者職員をメンバーとして、平成19年3月と平成19年2月に開催され、入居者の状況・ホーム行事等の報告を行い、意見や情報をいただいてサービス向上に活かしている。しかし、開催頻度が少なすぎるようである。	○	地域の特性もあると思われるが、行政・地域の理解の下に、2ヶ月に1回に開催し、成果を挙げているホームも多い。折角できている運営推進会議規定を下に、着実な開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡協議会に参加したり、介護相談員の受け入れを行い、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	電話連絡や来設時に、必要に応じて利用者の健康状態・生活状態等を報告している。また、金銭管理は金銭出納帳に領収書を添付して一ヶ月毎に渡しているが、利用者ごとにメモ等を添えたホーム便りのようなものは見られなかった。	○	口頭の連絡だけでなく、一言添えたお便りが家族との絆を強めるものになると思われる。一度検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に受付窓口が明記されており、電話連絡や来訪時に何時でも苦情・相談を受け付ける体制にあり、その意見をホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が混乱することがないように馴染みの関係を大切にし、新しい職員を紹介したり、結婚、出産、退職等は常々利用者と話をし、ダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修制度が整っており、職員は順番に研修に行けるように計画している。また、資格取得を奨励しており、勤務調整等の協力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会やグループホーム連絡会に参加し、同業他社との交流の機会に意見交換を行い、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には本人や家族がホームを見学したり、また職員が自宅等に訪問するなど、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畳のある居間では利用者と職員と一緒に腰をかけ、テレビのニュース番組に驚いたり笑ったり、時には利用者の話にじっと耳を傾けるなど、共に楽しむ関係が見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中の言葉や表情、日頃の行動などから思いや希望を汲み取ったり、面会時に家族から情報を得るなど本人の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月サービス担当者会議を行い、本人や家族の意見を尊重した介護計画書を作成している。毎日15分間のケアカンファレンスでは利用者の情報を職員間で検討・共有し、タイムリーに介護計画に反映するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は本人・家族と話し合い3ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者や家族の状況の変化に応じて、その都度話し合い、現状に即したケアにつながるよう新たに介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて受診や外出に付き添うなど、必要な支援には対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にしており、受診や通院は家族とホームが協力して行っている。また、必要時にはホームの協力医療機関での受診・往診が速やかに受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時及び利用者の状況の変化に応じて本人、家族、かかりつけ医と終末期の暮らしについて話し合い、方針を共有している。終末期ケアに対する指針やマニュアルは作成していない。	○	利用者が重度化しつつある現状から、今後起こりうる変化に備えて指針やマニュアルを作成するなど、ホームとしての終末期のあり方について検討や準備をされることを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の介護記録などは事務室で管理している。職員は自尊心を傷つけないよう、やさしくゆったりした口調で言葉かけをしており、さりげなく見守る姿勢がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人が持っているの生活リズムを大切に、自由に本人のペースを保ちながら暮らせるよう、散歩や買物など、その時々本人の気持ちを確認し、尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のひとり一人の持てる力を活かせるよう、食事作り、配膳、後片付けなどは職員と一緒にやっている。また、散歩中に近所の農家で頂いたきゅうりの酢の物がメニューに加わり、感謝の気持ちで食事を楽しむ雰囲気が見られた。職員は弁当を持参している。	○	職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しめるよう、一週間あるいは一日一食から取り組むなど、共に「食」を楽しむ環境作りを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は2時～4時頃までと決まっているが、毎日入浴できるようにしている。体調に配慮しながらひとり一人の希望を聞き、また、気の合った人と入浴を楽しめるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畳のある広い居間では洗濯物を広げ、利用者と一緒にたたんだり、ホーム前の草花に水撒きをすることを日課にするなど一人ひとりの力を活かした生活が送れるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は茶畑が広がっており、毎日散歩に出かけるようにしている。近隣の住民とも顔見知りとなり馴染みの関係がある。また、車での買物や外食、ドライブなど利用者の希望に添って行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ行っている。ユニット毎のドア及び玄関の施錠はせず、職員が目配り、気配りしながら見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所の本部が近くにあり、いざという時は協力が得られやすい。「自分の身は自分で守る」という意識の下、消防訓練は年2回行い、地域と連携を図っている。また、3ヶ月に1回は火災や地震を想定し、利用者と職員全員で避難訓練を実施するなど、緊急時に対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事をしながら本人の好みや摂取量、食べる力を把握し、一人ひとりに合ったペースで栄養・水分が摂取できるよう支援をしている。水分量は○・△の記号で記録している。	○	高齢者が健康的に暮らしを継続していくために、適切な栄養と水分摂取は大切である。水分は大まかな摂取量を把握できるような記録が望まれる。また、定期的に管理栄養士などの専門職によるカロリーや栄養バランスについてアドバイスが得られるよう取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を中心に適度な明るさがあり、落ち着いた雰囲気となっている。玄関前のベンチでは日向ぼっこが出来るようになっており、また、広い畳の部屋では冬はコタツが置かれ、利用者がゆったりとくつろげる空間があるなど、利用者それぞれが思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家で使っていた箆笥や机、仏壇など本人の希望が取り入れられるよう家族の協力を得ながら居心地良い空間となるように工夫している。		